

福井の強みを活かす 新幹線開業を！

「北陸新幹線福井開業対策検討
専門委員会報告書」より

金沢・敦賀間の開業が3年前倒しとなった北陸新幹線。開業までの期間が短くなった現在、限られた時間において、開業効果を最大限に発揮していくための対策を、的確かつ早急に講じ、実践していかなければならない。そこで福井商工会議所では、観光・文化委員会（野坂鐵郎委員長）内に「北陸新幹線福井開業対策検討専門委員会（以下専門委員会）」を設置し、新幹線開業対策の基本的な論点を整理し、具体的な取り組みを提案するため検討を行った。今回はその報告書の内容を紹介するとともに、委員会の皆様に話を伺った。



(福井新聞社提供)

福井の現状と

新幹線開業対策の方向

福井は長い歴史・文化、豊かな自然があり、幸福度は高いものやや内向きと言われる地域性や、ものづくりでは評価が高い一方で、第三次産業では立ち遅れた面も見られ、観光・サービス産業については、そのコンテンツや企業集積において強い存在感はない。そのため、新幹線開業に対する考え方はそれらを踏まえた「福井オリジナル」の戦略が必要である。

また、新幹線開業効果を発揮し持続させるためにも、行政と企業、住民が共通の将来ビジョンを持ち、特に「福井駅周辺」「観光面・産業面」「交通面」などにおいて、それぞれが弱い面を補い強い面を協力して伸ばせる関係性が求められる。それぞれが今後どのような地域を目指していくかを共に考えていかなければならない。

これらを踏まえ、先行開業地の富山と金沢の事例を参考に、専門委員会では議論を行い、次の4つの戦略を定めた。

戦略その1

福井駅周辺への

官、民の集中投資

福井県嶺北部の移動拠点となる福井駅は、最も乗降客数が多くなることが予想される。特に、二次交通への乗り換えやレンタカーの利用など、多くの県外客が降り立つ場所であることを考慮すると、福井駅周辺での観光客対応は当然必要だ。

その点に関して「駅は最も人が来る場所であり、顔となる部分なので、第一印象の見た目が大切」と話すのは、委員の㈱JTB中部福井支店支店長の太田洋介氏。「観光客が駅に来た時に、例えば金沢駅にあるような歓迎のフラッグのようなものがあることがとても大切だと思います。こういったことは当たり前のことで、もっと観光客をお迎えするという体制づくりをしなければいけません」とおもてなしの意識の大切さを語る。

また、福井駅周辺には大きな観光スポットがあるとはいえない。少なくとも福井駅周辺では多くの



学識者としての見解を述べる江川先生

地域情報が得られ、スムーズに二次交通への乗り換えができ、さらに言えば地域の住民も頻繁に訪れ、楽しむことができるようなスポットが新たな観光コンテンツ作りの面から必要である。その点について、委員の福井県立大学地域経済研究所講師の江川誠一氏は「駅が観光交流や情報のハブにならなければならない」と語る。「新幹線が開業すれば、福井駅は交通のハブとしての役割が強まると思います。しかし、いくらハブと言っても単なる乗換の中継地点となっただけではありません。新しい観光施設だけでなく、既存の観光資源なども有効活用し、観光交流を生み出していかなければいけません。また、福井は情報発信力が弱い傾向

にあります。福井駅に来れば県内の観光地の状況などが分かる、情報のハブとなるべきです。福井駅を様々な部分においてハブ化することで、福井駅を中心として、人を呼び込むことができます」と、駅の価値を高める必要性を話す。

地域の住民が頻繁に訪れる場所にする点について、「まず福井県民に愛される場所にしなければなりません」と語るのは、委員の㈱大津屋代表取締役社長の小川明彦氏。「県民に愛されなければ、県外から人は来ません。しかし、以前より不足していた駐車場が駅東口の駐車場が閉鎖されたため、更には足りない状況となっています。また、以前駅前で駐車場がないため駅前まで来ても帰ってしまう県民もいました。そのような状況の中で、今後ハピリンがオープンし、そこで大きなイベントを行えば、駐車場が圧倒的に足りなくなります。人が来なければ何事も始まりません。人が来るためには、大型観光バスにも対応できるように1000台規模の駐車場を整備するべきです」と、駅周辺の整備



宿泊業界の観点から
取り組みについて語る清水社長

備について語る。

また新たな観光コンテンツ作りについて、委員の(有)ホテルあけぼの代表取締役社長の清水嗣能氏は、「福井駅が通過点となってしまうまいように、福井に泊まる意味を作るべき」と述べる。「観光において最もお金が落ちるのは宿泊です。宿泊が発生しないことには、入ってくるお金はとも少なくくなります。先行開業した金沢市は観光地が市内に集中しています。福井はそれと反対で、魅力的な観光地が県全体に点在しています。福井市の観光を活性化させるためにも、それぞれの有力な観光地との結びつきを強化したり、年々中行ける観光施設を作るなど、福井市がハブとなって、福井市内に

泊まる意味を強化していくべきです。その一方で、福井市の宿泊施設のキャパシティは多くありません。宿泊業界としては、今後新幹線開業に向けて、施設を徐々に新しくしつつキャパシティを増やしていかなければいけません」と、宿泊の重要性を語る。

報告書では、戦略その1の重点的な取り組みとして「新栄エリア、北野城址・柴田公園のリニューアル」を挙げ、その戦略的な活用を提案している。

また福井駅周辺の再開発計画が動き始めている今、新幹線開業までに福井の玄関口としてふさわしい設えに福井駅周辺を一新することが必要なのである。

戦略その2

300万人入館者を目指した

恐竜のキラークンテンツ化と

本物志向の「おとな」が

満足できる観光の確立

福井県立恐竜博物館の年間入館者が90万人を超えるようになったことから分かるように、恐竜は福井を代表するブランドとして強い



福井の恐竜ブランドの活かし方を話す太田支店長

訴求力を持ったコンテンツである。

太田支店長は「恐竜は、県外から見るととてもインパクトが強いコンテンツです。これをうまく利用して、例えば恐竜博物館の周辺の整備を進め、滞留時間を長くするべきだと思います。魅力的なコンテンツをうまく利用して、もっとお金が落ちるシステムを作っていくべきです」と話す。

博物館としての機能を超えた観光施設として本体を含めた周辺インフラや、子どもや教育を対象・目的とした施設を整備することで、年間入館者を2倍、3倍と増やすことも可能だ。大きなウェイトを占めるファミリー層をターゲットにした誘客を図り、恐竜を

中心として300万人観光地を目指すべきである。

またその一方で、知名度の高い大本山永平寺や一乗谷朝倉氏遺跡を核としたシニア層への売り込みを充実させ、本物志向のおとなが満足できる観光も確立することも必要である。恐竜とは異なるシニア層をターゲットとした体制を整えることで、恐竜中心のファミリー層向けと2つの観光が構築可能となる。

観光を産業として発展させるためには、大胆な割り切りによる選択と集中が求められるのである。

戦略その3

新産業育成による

地域力向上

新幹線開業により企業や人材の流出も懸念されている。しかし、福井には繊維や化学、機械など日本でもトップクラスの技術を持つ中小企業が多くある。このような高い技術力を持った基幹産業を時代のニーズに合わせて新しい展開へと促すことで、福井は新たな産業の先進地域として変化していくかな



新産業の重要性を語る野坂社長

なければならない。

専門委員会委員長で、福井経編興業(株)代表取締役社長の野坂鐵郎氏は「新幹線開業がもたらすものは観光客だけではない」と語る。

「これからは新しいニーズに合う、新幹線を活用した交流が必要で、福井には公立でしっかりとした教育が受けられ、子どもが育てやすい環境が整っています。例えば、福井の教育力を活かして県外の子どもの受け入れや養育を行うといった取り組みもできるのではないのでしょうか。新産業についても、研究開発だけではありません。福井の強みを活かし、観光だけにとらわれず、ニーズに合った新産業を育成しなければいけません」と新産業の育成の必要性を述

べた。

その他にも、福井の場合は他の観光都市のような観光開発がなされていないことから、一般的な観光都市とは差別化した打ち出し方が可能である。野坂社長が述べたように、福井のブランドともなっている教育とそれに関連する各種体験による観光をプロモートして、新産業として育成していくことも考えられる。

戦略その4

世界につながる交通体系の

実現と利便性向上

新幹線開業に伴い、並行在来線区間はJRの経営から分離される。この分離された鉄道を資産として、通勤・通学・買物などの生活や観光などで有効活用し、守り支えていかなければならない。そのためには、住民や新幹線開業により増加が見込まれる観光などの来訪者が、福井駅を起点として利用しやすい、利用したくなるような取り組みが求められる。

また、新幹線の敦賀開業後は大阪までの延伸やリニア中央新幹線



アクセス強化の必要性を示す小川社長

開業が控えている。大阪の先には関西国際空港が、リニア中央新幹線開業の先には中部国際空港がある。そこまでを視野に入れたアクセス強化の戦略を考えていかなければならない。

小川社長も「タイやシンガポールなどの東南アジアの人が日本に来るとなれば、より近い関西国際空港を利用します。関西国際空港から降りて1時間だったら、世界中の人が福井を近く感じてくれる。福井に来るようになります。

関西国際空港が入り口となって世界から人が入ってくるようになるのです。そういったお客様の目線で考えればその必要性が分かると思います」と関空までの延伸の必要性を話す。

さらに、北陸新幹線延伸で位置づけが変わりつつある小松空港の現状を踏まえ、野坂社長は「現在、海外から日本へは観光客が入り、日本から海外へはビジネス客が出ています。小松空港の位置づけの変化も考えると、国際便をもっと増やしていくべきなのではないでしょうか。また、今後新幹線を活かし、滋賀県や富山県も取り込んで連携することができれば、交通面での北陸地区のポテンシャルはさらに上がることになるでしょう」と、新幹線が世界へとつながる存在となると述べた。

福井などの地域や日本が整備新幹線の効果を最大限に活用していくため、今後も世界に羽ばたく高速交通体系の完成に向けての取り組みを進めていかなければならないのである。

新幹線開業に向けて

北陸新幹線に向けた意識を、行政、経済界、市民・県民が共有し、皆で議論するところから始め、全体の意識を高めていく事が最も重要な開業対策である。

福井商工会議所としては、新幹線の開業により最も影響を受ける地域経済や企業経営について、その効果をプラスとし、地域の発展に結実させるため、経済界として必要な取り組みを着実に進めていく。また併せて、財源などの現状も十分に踏まえながら、福井にとつて夢のある提案を常に投げ掛け、地域の議論を喚起しながらその活力増進につなげていきたい。

この報告書がきっかけとなり、より効果的な対策が確実に講じられ、期待を持ったまま開業の時を迎えられることがゴールである。

そのために、行政・住民・経済界が一致したビジョンを持つことが必要不可欠であり、まずはそのような場を継続的に持つて実現に向けて進むことが必要だ。

なお、この報告書には今回紹介した他にも、様々な取り組みやアイデアが載っているため、是非福井商工会議所ホームページにて報告書をご覧いただきたい。

問い合わせ先

福井商工会議所 地域事業課
TEL 0776(33)8253